



進修同窓会 HP にアクセス

(土浦一高・旧土浦中学とその周辺のもの)
第180号 2024(令和6)年7月9日
茨城県立土浦第一高等学校
進修同窓会旧本館活用委員会
HP <http://www.sin-syu.jp/>

土浦一高の筑波登山と生物部

土浦一高は1948[昭和23]年4月に誕生しました。1950年には、新制中学からの新入生を迎え。5月には戦争により途絶えていた筑波登山が再開されました。今号では土浦一高の筑波登山と生物部の活動を記していきます。

なお、引用文中の【 】は筆者による注記です。

旧制土浦中学から新制土浦一高へ

「昭和22」年4月、新制小・中学校が発足し、6・3・3・4制教育が始まりました。それにより、旧制中等学校に在籍する学齢(義務教育を受けることが適切とされる年齢)生徒の新制高校への入学のための措置として、同年4月からの2年間は、旧制中等学校に新制の併設中学校が設置され、旧制中等学校の新生入生募集は停止されました(新入生は新制中学に入学した)。同年度に旧制中等学校2年生となる在籍者(1946年度入学生)は併設中学2年生に、3年生となる在籍者(1945年度入学生)は併設中学3年生となりました。1944年度入学生は旧制中学4年生に、1943年度入学生は旧制中学5年生に、それぞれ進級しました。

翌1948年4月、新制土浦一高が発足し、旧制中5年生を修了した者(中48回)の希望者が高校3年生(高1回)に、旧制中4年生の希望者が高校2年生(高2回)、希望しなかった者は旧制中5年生に進級。中49回に、併設中3年卒の希望者が高校1年生(高3回)となりました。同時に、定時制・通信制も発足し、それぞれ1年生を迎えました。

1949年4月には、1946年度に入学し、旧制中1年の後、併設中2・3年生を修了した者の希望者が一高に入学し(高4回)、併設中学はその役目を終えました。

1950年3月、新制高校初の入試が行われ、4月には土浦一高でも新制中学からの新入生(高5回)を迎えました。入学以来4年間、最下級生としての地位に甘んじてきた2年生(高4回)は、先輩として、土浦中学伝統の特権(鉄拳が振るえる、と、手ぐすね引いて待ち構えていた)が、民主主義教育の申し子とも言えるべき1年生や、民主主義教育の実現を目指すべく豹変した少なくとも2・3年生からはそう見えた。先生方を前に、為す術もなく、歯ざしりをする思いでした。

戦後初の筑波登山

戦後初の筑波登山は、1950年5月23日に実施されました。詳細は不明ですが、真鍋駅〜筑波駅間は常総筑波鉄道筑波線を利用し、筑波駅から山頂までは、徒歩で往復しました(ケーブルカーは戦時金属供出のため撤去されていた。営業再開は1954年11月3日)。

この時、生物部は、学校から特別に許可を得て、白滝方面で植物・昆虫採集を行っています。当時、生物部長であった枝重夫(高3回)は、この筑波採集登山についての英文日記を残していますが、それによれば、生物部の採集活動は、次のようなものでした。

「1950年5月23日、土浦一高全校筑波登山。五月の空は青く澄み渡り、山の木々は新緑に輝いている。10時30分、我々生物部員は、山頂を目指す一高生とは別に白滝方面に向かう。採集のための時間が約3時間しか確保できないので、植物や昆虫の種が数多く見られる白滝付近で採集を行うのである。ほとんどの部員は植物採集だが、私は蝶類採集である。後輩部員一名と櫟【クヌギ】の茂みの中に入り込む。そこは蝶の巣であった。キマダラヒカゲ、ヒメウラナミジャノメ、ヒカゲチョウ等々、いずれもよく見られる蝶である。すると突然、黒い蝶が目に入った。オナガアゲハである。葉の上に止まっている。まだ捕まえたことがない。ドキドキしながらそつと近づいたが、蝶は飛び立ってしまった。急いで後を追いかけたが、見失う。残念至極である。我々二人は12時30分に白滝に着いた。数人の部員が植物採集中であった。大きな松がそびえ立ち、清冽な水が流れ落ちている。渇いた喉を潤す。ここで以前、日本で最も美しい蝶の一つとされるカラスアゲ

昆虫採集

ハを捕まえたことがある。午後1時30分、我々部員一同は筑波山神社前に集合し、筑波駅へと下山した。」

枝重夫は、土浦中学、土浦一高での昆虫採集や生物部での活動を、『進修百年』(1997[平成9]年11月発行)に、「高校時代のクラブ活動と現在の私の趣味」と題して、次のように記しています。

「……私は一九四五(昭和二十)年つまり終戦の年に旧制の土浦中学校に入学した。本校は戦後の学制改革によって新制の土浦第一高等学校に移行したので、そのままちあがり(無試験)進学することができた。だから同じ校舎で六年間勉強したわけである。高校進学のための受験戦争はなかったためクラブ活動などもかなり余裕をもって行えたと思う。さて【旧制土浦】中学二年の夏休みの宿題として昆虫採集が出された。生来ものを集めることが好きだった私は、蝶を採集するのに夢中になった。真壁町の自宅付近から始めて次第に行動範囲を広げ筑波山にまで足を伸ばすようになった。【併設】中学三年になっても蝶の採集を続けた。終戦直後で遊ぶ場所も道具もない時期だったので昆虫採集に集中できたのではないかとという解釈も成り立つ。高校一年の夏休みも昆虫採集が宿題だったので私の蝶の採集はいよいよ本格的になっていった。筑波山という好採集地があるのも都合がよく、一種また一種とコレクションが増えていくのが嬉しかった。また生物の上田(後に小島と改姓)正二先生[作業・農業 在職1945年〜1949年]の指導もよかった。

高校二年の時には美術部に入って小林恒吉君らと共にもつぱら絵を描いていた。一九五〇年一月十五日から十八日まで開催された県南高校美術展に奨励賞を受賞したのはそのエポックである。……

高校三年になり、私は父の職業である
歯科医の道に進むため、クラブも生物部
に復帰することにし、部長に就任した。
それから一年間の活動については『復
刊』進修第三号』四十五〜四十七頁(一
九五一年)に記されている通りであるが、
その要旨をここに記録しておきたい。

四月二十二日

春期筑波山採集会 生物部への新入
部員歓迎会(兼川崎次男先生「理科
職年々」1950年)送別会。

五月二十三日

土浦一高全員の筑波登山 生物部は
許可のもとに特別行動をとり、白滝方
面へ植物・昆虫採集を行った。『進修
百年』には、この日の枝の英文日記も掲載
されている。

六月十五日

衛生試験所見学

七月二十二日(二十六日)

房総半島南端へ海藻・貝・プランクト
ンなどの採集旅行

八月八日

夏期筑波山採集会

十月一日

水戸一高で開かれた第三回茨城県高
等学校生物研究発表会で発表
枝 重夫・筑波山付近における蝶の
活動季節

平島恵一・筑波山のシダ植物について

井川洋二・霞ヶ浦及び桜川のプランク
トン

十月十九日

第三回土浦一高文化祭における生物
部発表会
上田 実・霞ヶ浦及び桜川のプランク
トン

鯨井一江・クローバーの変異

枝 重夫・筑波山の蝶類

十月二十四日

上野科学博物館・上野動物園・小石川
植物園見学

十一月十九日

土浦一高生物部主催の第一回県南高
校生物研究発表会が土浦一高で行わ
れ次のような発表があった。

一、筑波山のシダ植物

二、霞ヶ浦のプランクトン

三、筑波山の蝶類

四、桜川のプランクトン

五、龍神山の植物分布

六、伝書鳩の習性

土浦一高 枝 重夫

以上

……さらに個人的活動として七月十
九日に筑波山でモンキアゲハという茨
城県では珍しい蝶を採集することがで
きた。そこで九月に発行された「土浦一
高新聞」第三号に発表した。……

私は一九五一年三月に土浦第一高等
学校を第三期生として卒業すると東京
歯科大学に進学した。上京して昆虫同好
者の集まりに顔を出すようになって、私
の高校までの蝶の研究が幼稚でまさに
「井の中の蛙」であったことを自覚し、
厳しい歯科医学の勉強の余暇に蝶をや
るには無理があると思った。そんな時に
上野の科学博物館で偶然トンボの世界
的権威者である朝比奈正二郎先生にお
会いして、「トンボの研究をやってみな
いか」と言われたのである。蝶に関する
論文等は膨大であるが、トンボなら研究
者も少ないし文献等も自分で何とか揃
えることができそうに考えられたので、
趣味としての研究対象をトンボに絞る
ことにした。そしてそれにのめり込んで
いった。朝比奈先生を国立予防衛生研究
所やお宅に訪ねて教示願うことも多く
なった。

一九五七年秋、私が東京歯科大学六年
の時に日本蜻蛉(とんぼ)同好会の設立

総会が上野の科学博物館で
開かれた。会長に朝比奈正
二郎博士(国立予防衛生研
究所衛生昆虫部長)、幹事に
安藤裕博士(東京教育大学
教授)と私が選ばれ、三人で
会の世話をすることになっ
た。それから三十九年が経
過し、現在では会も日本蜻
蛉学会(現在は日本トンボ学会
と改称)に昇格し、会員も三
百五十人(外国人四十人)を
含む)になった。朝比奈会長
は変わらぬが、私は事務
局長兼編集主任(後に会長も
務めた)として頑張っている。

高校三年の夏休みに、担
任の荒川潤先生(社会 在職
1948年〜1951年)が私の家に受験
勉強の陣中見舞に見えた時
『歯科大学に進学しても昆
虫の研究を続けたい』と励
【すすめられたのを今でも
憶えているが、継続は力
なり」という言葉を実感し
ている。

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

筑波山で採集

生物部長 枝 重夫

モンキアゲハ

モンキアゲハと云つてもピンと来ない人もある事
と思ひ先ずこの蝶について説明しませう。これは
黒色の地に黄白色の大形斑が見える美事な種類で
日本でも最大のものです。この蝶の分布は東洋熱帯
ですが、日本でも四国、九州、本州では東京以南
に産する蝶です。ところが茨城県でも珍らしい事
に屢々採集されたり目撃されたりしているのです

茨城県での最初の記録は昭和
四年八月十六、十七日頃、
筑波山の男体山と女体山と
の中間の草原で中村俊氏が
採集されたものと様です。
その後昭和八年谷伴夫氏が
水戸市内で、昭和十年八月
下旬内山俊一氏が大洗で、
又昭和十五年八月十日十一
日には斎藤卯内氏が御前山
で夫々目撃されているので
す。
その後昭和十六年九月十三
日附の読売新聞に土浦高女
教頭飯塚宗之助氏が採集さ
れたという記事がのつたそ
うです。
以上でモンキアゲハとはど
んなものであるかわかった
ので、その後は、観光バス
による日帰り遠足が「昭和
46」年まで実施され、翌年
からは、春に「土水交換会
(水戸一高との全校挙げての定
期戦)」が行われるようにな
りました。しかし、それも、
国公立共通一次試験の開始
により、「昭和52」年の
開催が最後となり、
1978
からは、6月に「二高祭」が開
かれるようになり、現在に
至っています。



筑波山白滝で採集したモンキアゲハ ♀
(1950年7月19日)